

22L-am02S

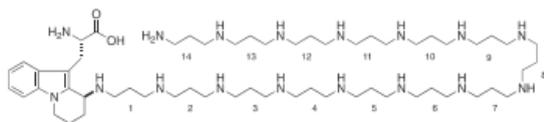
プロトアキュレイン B の合成研究

○木村 直人¹, 有賀 翔太¹, 大草 拓也¹, 假屋 唯香¹, 大内 仁志¹, 稲井 誠¹, 浅川 倫宏², 吉村 文彦¹, 菅 敏幸¹ (¹静岡県大薬, ²東海大創科技研)

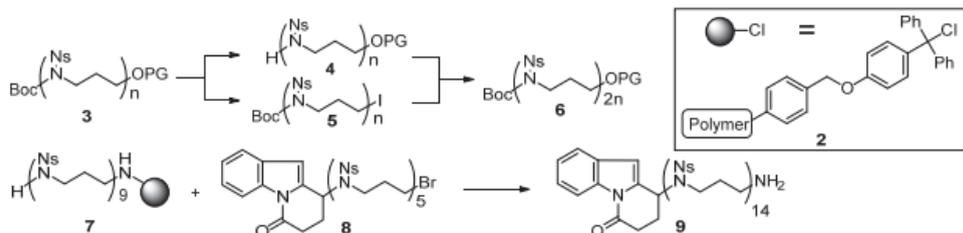
【目的】Protoaculeine B (**1**) は、特異な長鎖ポリアミン構造を有する海洋天然物であり、そのポリアミン構造に由来する生物活性に興味を持たれ

化合物供給が望まれている。¹ しかし、多数のアミノ基により極性が非常に高く、液相での合成・精製は困難である。そこで今回我々は、当研究室でポリアミン合成に実績のある Tr 型レジンをを用いた **1** の合成研究に着手した。

【方法・結果】長鎖ポリアミンを効率的に合成するために Ns アミド体 **4**、ハロアルカン **5** をそれぞれ調整し、連結する収束的合成法を用いた。共通中間体である **6** を合成した後に、固相担持型 **9** 量体 **7**、三環性骨格結合型 **5** 量体 **8** をそれぞれ合成した。その後、固相上でのアルキル化反応を行ったところ **14** 量体 **9** の合成に成功した。今後は、Ns 基の脱保護および精製の検討を行う予定である。また、この知見を用いて、Protoaculeine B の全合成を達成する予定である。



Protoaculeine B (1)



1) S. Matsunaga, R. Kishi, K. Otsuka, M. Fujita, M. Oikawa, R. Sakai, *Org. Lett.* **2014**, 16, 3090.